〔富岡鉄斎と近代日本画展によせて〕

横山大観筆「游刃有余地図下絵」をめぐって

「游刃有余地図下絵」は横山大観が大正三年（1914）に開催された再興美術院第一回展に出品した作品の下絵です。東京国立博物館に所蔵される完成作品は対幅ですが、この作品はその右幅にあたり、もう一幅、右幅の下絵が横山大観記念館に所蔵されています。

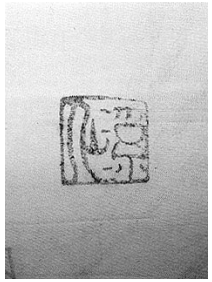
画題の「游刃有余地」は、中国の道家書、「荘子」養生主篇に収められた「庖丁解牛」の章に取材します。王侯、文恵君が庖丁（料理人）の刀で牛を捌く技術の見事さに感心していると、庖丁が「私が求めるのは技ではなく、道である。」と述べ、文恵君は「道」を説く庖丁の話を聞いて、真の生きかたである「養生」を理解するという逸話です。庖丁は牛を目、つまり、感覚だけではなく精神で捉え、天理に従って慎重に刃を動かせば、自然に肉が離れると語ります。「游刃有余地」、すなわち、「刃をあそばすに余地あり」とは、ほとんど厚みのない刀の刃先には、牛の関節の隙間は広々としており、ゆうゆうと動かせるという意味です。この言葉には「道」を会得した庖丁が刀を手にする時の心理が示されています。『大観画談』（昭和26年講談社刊）には、「ちょうど文展を向こうにまわし、大いに抱負を示し、主張を昂揚せんとつとめていた際のことです。前に読んでいた荘子を思い出してあんなものを描いたのです。」と当時の心境を述べており、大観が画題に反文展という社会的な立場を反映させ、「解牛」に「作画」、「刀」に「絵筆」の寓意を重ねていることがわかります。大観の文展、すなわち、文部省美術展覧会に対する主張とは、絵画に重要なのは見たままを写す技術ではなく、精神的な内容の表現であるということでしょう。このような絵画理念は、東京美術学校の校長となり、日本美術院を結成して大観、春草、観山らを育てた岡倉天心から大きな影響を受けています。

日本美術院は天心が東京美術学校校長を辞した明治三十一年の十月十五日に谷中初音町に開かれました。近代にふさわしい日本画を確立しようと意欲的な制作活動を行いましたが、まもなく経営不振に陥ります。明治三十七年の二月には、天心がボストン美術館の顧問として赴任することを機に、大観と春草は再起を図って渡米し、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアを巡って翌年の八月に帰国します。西欧諸国の絵画を鑑賞し、各地の展覧会では好評を得たものの、帰国後も困難な状況は打開できず、明治三十九年に日本画の研究所を茨城県五浦に移転します。その研究所も明治四十一年に春草が視力に異常をきたし、大観も住宅を火災によって失って離れます。その後、大観は明治四十年に開設された初の管制展覧会、文展を舞台に次々と力作を発表しますが、明治四十四年には、ともに歩んできた春草が三十八才の若さで世を去り、師と仰ぐ天心も日本美術院の再興を望みながら大正二年に亡くなります。大観は天心の遺志を受け継ぎ、谷中三崎町に研究所を設け、天心の一周忌にあたる大正三年九月二日に再興日本美術院の開院式を行いました。その一月ほど前に、新旧の二科制であった文展日本画部の統合によって審査委員数が半減され、大観が第八回文展の審査委員から外されます。再興日本美術院の第一回展は、第八回文展と同日の十月十五日に日本橋三越で開催されましたが、主催者である大観の「游刃有余地図」は、新しい日本画の表現を求める再興日本美術院の指針を示す特別な作品であつたと思われます。

「游刃有余地図」には、大観が洋の東西を問わず、様々な絵画表現を学んだ成果が表れています。歴史的な逸話に取材する寓意画の構想や、大きく人物を取り上げた画面構成には、キリスト教の聖人像と共通する要素さえ認められます。大和文華館所蔵の下絵には、度重なる修正の跡が残され、大観記念館の下絵や東京国立博物館の完成作品と比較すると、この後も多くの修正を加えていることがわかります。大和文華館の下絵の背景は、金属的な輝きのある顔料を用いていますが、完成作品では絹地の色をそのまま活かし、文恵君の描写にも相違が認められます。下絵では、肩から背に広がる量感はより豊かに、顔の瞼から頬へつながる輪郭線はより硬質に感じられます。このような描写は実際に人物をスケッチしたとは思えません。強く流れる衣文線、襞を畳んで剣のように垂下する条帛を見ますと、絵画というよりも彫像、それもフェノロサを感激させた法隆寺夢殿観音像に代表される推古仏を想わせます。完成作品では柔らかな人間らしい表現にまとめられますが、庖丁の話を聞き漏らすまいとする高徳の王侯、文恵君の造形的なイメージの源を推古仏に求めたとしても不思議ではありません。展覧会後、「游刃有余地図」は、再興日本美術院を経済的に支援した原富太郎によって購入され、大観の創作の軌跡が示された下絵は、作品の右下に捺された印から再興美術院展に京都からただ一人参加した富田渓仙に所蔵されていたことがわかります。　（中部義隆）

（「游刃有余地図」の挿図は、『日本近代絵画全集　第15巻』昭和37年講談社刊より、「游刃有余地図下絵」横山大観記念館蔵の挿図は『横山大観記念館所蔵品目録』平成５年横山大観記念館刊より複写させていただきました。）

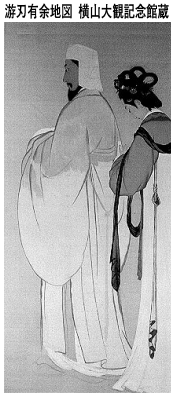
大和文華館本　部分



大和文華館本　部分

游刃有余地図　東京国立博物館蔵

游刃有余地図 横山大観記念館蔵



游刃有余地図下絵 大和文華館蔵

季刊 美のたより №141
平成15年１月５日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.